

私立大学情報教育協会

平成 29 年度 大学職員情報化研究講習会

基礎講習コース報告 A-3 班 チーム名：menaryu

## 1. テーマの決定

私たち A-3 班では「社会の発展に資する研究と人材の輩出」～学生が社会で生き抜く力を身につける～というテーマを選択してグループ討議をすることとした。様々な大学に共通する課題（教職員の事務手続きの煩雑さ）を ICT（AI や電子化）によって解決し、それによって発生した時間と資金を「教育・研究・社会貢献」に投資することを目標として位置づける。

## 2. 概要①～私たちが考えた大学の役割～

大学の役割とは何かについて意見を集約することとし、以下のとおりとなった。

【研究】社会に役立つ研究成果の発信 → 社会に貢献する

【教育】大学で得た知識を活用できる人材の輩出 → 社会で生き抜く力をつける。

前述の研究と教育の結果、「社会に役立つ人材」を育成することが大学の役割であると考えたが、「社会に役立つ人材」とは、大学の掲げる 3 つのポリシーを具現化した者であり、利益追求型、高バリューな人材を示す。個々の能力が異なるため、本人の能力を 100% 発揮させることでバリューの総和が高くなる。それに加えて、本人の希望や適性ととのマッチング・大学で得た知識・スキルを活かすことが重要となる。

## 3. 概要②～役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか～

様々な大学に共通する課題を ICT（AI や電子化）によって解決し、それによって発生した時間と資金を「教育・研究・社会貢献」に投資することが重要である。その投資先として設備投資、人材雇用・育成、地域連携、独自の奨学金、研究費などが挙げられる。

## 4. 大学の現状分析と解決策

### 【注目した課題・問題】

教職員・学生の各種手続き時において煩雑なことが多いことが問題であり、その解消が求められる。

- ① 教員の書類作成（外部資金獲得や資格審査）に手間が多い
- ② 法人の決裁（意思決定）に時間がかかる
- ③ 職員の業務引き継ぎが正確に行われない
- ④ 職員の学生対応（履修、試験、レポート）に時間が取られる

【役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？】

各種手続き書類を減少させて、手続き方法を簡略化する必要がある。

- ① ②→電子化（申請や入力）、書き方等について AI の活用
- ③ →AI（watson、siri 等）の使用
- ④ →AI（ペッパーくん）の使用

## 5. 問題解決に向けての職員の役割

【AI の 5 年後、10 年後の導入に向けて】

iPhone は近年で著しく使用者が増加した。しかし、今年でまだ 10 周年であることを考えると AI も 10 年後には導入・活用が当たり前になると予測されるので、現時点から導入に向けての準備をしていく必要がある。

### ① データ蓄積・整理

- ・ 課外活動等の学生生活全般に係るデータを集約するために現行システムの稼働の範囲を広げ、学籍・就職・教務システム等の一元管理を行う。
- ・ 提供サービスの選択と集中として、学生のニーズ調査のために簡易アンケートをとる。
- ・ 既存実施の各種アンケートとの連動性を持たせてデータ蓄積に反映させる。

### ② 業務内容の見直し

- ・ ICT 活用によってペーパーレスやウェブ会議導入などを通して、コスト削減を行い徹底して無駄を省く。印刷代や機械代、人件費等を削減することで業務の効率化も促進され、業務のあり方を見直す機会となる。

### ③ ICT・AI の知識を身につける

- ・ 既存の ICT を十分に使えていない職員が多い中で、ICT に関する研修等を行い、より身近なものとする事で個々の ICT 能力向上を図る。
- ・ 職員の ICT に関する資格取得等のスキルアップにより、担当部署により直接的、間接的はあるが、最終的に学生支援の質が向上する。

## 6. 仮想スケジュール～2028 年 AI 導入に向けて～

以上のことを念頭に置き、私たちのグループで検討した AI 導入に向けた今後の仮想スケジュールを立てることとした。

2018 年 4 月～ ICT・AI の知識会得 業務内容の見直し、整理 重点課題の設定

2020 年 4 月～ データ蓄積 予算案の設定 学内・学外広報 協力会社の設定

2027 年 4 月～ ユーザー向け説明会 規程等の整備

2028 年 4 月～ 本番環境稼働

